



武蔵野徳洲苑
施設長便り



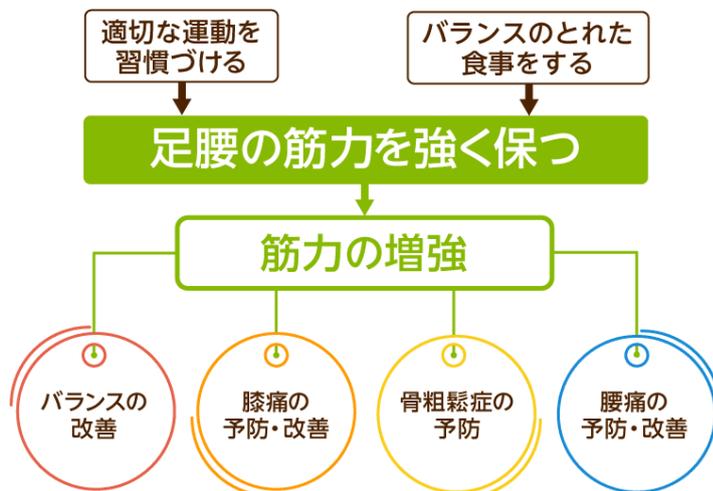
※職員作成の切絵（10月・11月の風景）

当施設における百寿者の疾患的特徴とロコモティブ対策

日本人の平均寿命は延びつづけ 100 歳以上の百寿者の数はこの半世紀で激増し 6 万人を突破したと云われていますが、多くは寝たきりで健康寿命は短いようです。増え続ける高齢者に適切なアドバイスをするには高齢者の疾患的特徴を知る必要があります。そこで当老健施設を利用している百寿者と一般入居者の疾患の種類を調査・比較しました。

（調査方法）入所者の疾患名や体重は入所時の診療情報提供書に記載された疾患名を採用し、体重は当施設に入所時に担当職員が測定しました。認知能に関してはこれまでの主治医の記載と記載がない場合は、長谷川式を参考にして判定しました。当施設の規模はベッド数 150 床で常勤医 1 名、非常勤医 3 名、看護師 22 名、介護福祉士 44 名、リハビリスタッフ 11 名、栄養 17 名です（令和 4 年 8 月 1 日現在 在籍数）。入所者が急変した場合には隣接する武蔵野徳洲会病院か、ベッド数 500～600 床規模の日赤病院や公立病院に緊急入院や、緊急処置をお願いしています。

ロコモティブシンドロームの予防方法



（結果）当施設を利用した百寿者は 22 名で平均年齢は 101±2 歳、男女比：2 対 20 で大半は女性でした。なお百寿者は一般の入所者（過去 2 年間に当施設を利用した方）に比べて体重は低く、平均体重は約 40.3kg でした。血管系疾患、ロコモ症候群の発生頻度が低く脳梗塞や糖尿病の罹患頻度も少ないことが分りました。

（結果）高齢者施設ではリハビリのプロトコールに骨を強くするような運動を取り入れるとともに、転倒や転落に注意しロコモティブ症候群や骨粗鬆症に有効な食事や、認知症の進行を抑制するような試みを積極的に取り入れる事が重要であることが示唆されました。

武蔵野徳洲苑	施設長	栗田 明
	看護師長	千葉 のぞみ
	事務長	宗像 雅則
2022年10月1日		